

## VI 指導案



### 【公開授業①】

領域	授業クラス	授業者	題材	掲載ページ
衣生活	5年2組	伊田 朱里 教諭 (川上小学校)	ミシンにトライ! 手作りで 楽しい生活	P20～22
食生活	6年1組	板倉富美江 教諭 長尾 豊美 栄養教諭 (川上小学校)	まかせてね 今日の 食事	P15～17

### 【公開授業②】

領域	授業クラス	授業者	題材	掲載ページ
消費・環境	5年1組	松島 慧 教諭 (託麻原小学校)	持続可能な暮らしへ 物やお金の使い方	P23～24
課題と実践	6年2組	小菌裕太郎 教諭 (泉ヶ丘小学校)	生活を変えるチャンス	P18～19

\* 題材全体の授業の実際については、県大会(熊本市大会)のまとめ【報告書】として、年度末に掲載する予定。

# 第6学年1組 家庭科 学習指導案

指導者 T1教諭 板倉 富美江 T2栄養教諭 長尾 豊美

## 1 題材の構想 まかせてね 今日の食事（東京書籍） B(1)イ(2)イ(3)アイ C(2)アイ

題材終了時の児童の姿	食事の大切さや栄養のバランスを考えた献立の立て方を理解するとともに、環境への配慮、自分や家族の健康を考えた食事づくりをするための調理計画や調理の仕方を工夫し、自分の食生活をよりよくしようとしている。		
題材の目標	<b>〔知識及び技能〕</b> ・献立を構成する要素が分かり、1食分の献立作成の方法について理解する。 ・調理に必要な材料の分量や手順が分かり、調理計画について理解する。 ・材料に適したゆで方、いため方を理解し、適切にできる。	<b>〔思考力、判断力、表現力等〕</b> ・1食分の献立の栄養のバランスや環境に配慮した調理の仕方について問題を見いだして課題を設定する。 ・様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。	<b>「学びに向かう力、人間性等」</b> ・家族の一員として生活をよりよくするために、栄養を考えた食事や環境に配慮した生活について、主体的に取り組む。 ・自分の生活を振り返って改善したり、工夫したりして実践しようとしている。
目標に向かうための手立て	<b>○研究の視点</b> <b>【視点1 課題設定の工夫】</b> 児童の実態調査に加え保護者へのアンケート結果や設定家族の食生活を提示することで自分の食生活における問題に気づき、なりたい自分の姿を具体的にイメージできるようにする。 <b>【視点2 指導の工夫】</b> 自分や家族の健康を考えた献立づくりにおいては、設定家族の献立について、栄養バランスチェック表（熊本市教育センター作成）を活用して栄養のバランスを考えた献立に改善する活動を行う。また、調理実習や実践報告会においては、調理の過程や作った献立を画像や動画で記録したものを発表させる。これらを通して、自分の考えを表現したり他者の考えを学んだりして、考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 <b>【視点3 振り返りの工夫】</b> 生活の中から課題を見出し、学んだことを生活に生かすという教科の特質から「今日の学び」「これから」の視点で振り返りを行う。また、自分の生活の変化や成長を実感できるようにするためにロイロノートやメタモジを活用し、題材を通して振り返りを蓄積していく。さらに調理の様子や映像を残しておき、技能の習得状況を把握するとともに、改善点が分かるようにする。		
児童の実態	昨年度は、学校での調理実習はできなかったが、今年度は1学期に、いためる調理を行った。 家庭での調理体験は、「ほとんどしたことがない」が6割であった。 家庭科の調理でできるようになったと感じていることは「いためる料理を作る」が9割、「包丁で食材を切る」が6割、「みそ汁を作る」が2割であった。家庭での調理への参加が少ないのが現状である。	「食習慣について自分の問題は何ですか」（複数回答）の問いに、「栄養バランス」を挙げている児童が6割、「噛む回数が少ない」と「好き嫌い」がそれぞれ5割であった。児童は栄養のバランスに関して意識しているものの、個々の課題を解決するまでの実践には結びついていない。 保護者向けのアンケートでは、家族の食習慣の問題は、「栄養バランス」と「好き嫌い」について、ともに5割の保護者が挙げていた。	1学期の調理の家庭実践の振り返りでは、「喜んでもらえてうれしい」と感じている児童がほとんどだった。「毎日、いろいろ考えて調理をしている親はすごい」「これから料理を手伝うようにしたい」と書いている児童もいた。 給食時の様子からは、少食・偏食の児童が多く、五大栄養素について学んではいるものの実際の食生活とのつながりは低いと見てとれる。

単元（題材）の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 献立を構成する要素が分かり1食分の献立作成の方法について理解している。 ② 調理に必要な材料の分量や手順が分かり、調理計画について理解している。 ③ 材料に適したゆで方、いため方を理解しているとともに、適切にできる。	① 1食分の献立の栄養バランスや環境に配慮した調理の仕方について問題を見いだして課題を設定している。  ② 様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	① 家族の一員として生活をよりよくするために、栄養を考えた食事や環境に配慮した生活について、主体的に取り組む。  ② 自分の生活を振り返って改善したり工夫したりして、実践しようとしている。

指導と評価の計画（10時間取り扱い ●本時3/10）

課題	次	時	主たる学習活動	評価する内容と方法等
家族の健康のために1食分の食事を作ろう	1	1	○アンケート結果や設定家族の献立をもとに自分の食生活を振り返り、題材を通してためあてを設定する。	【思】①振り返りシート 【主】①振り返りシート
	2	2	○主食・主菜・副菜・汁物を組み合わせて献立を立てることや、献立を立てる順番を理解する。	【知】①学習シート 【主】①振り返りシート
		3	●一食分の献立を考える活動を通して、栄養のバランスを考えた献立の立て方を理解する。	【知】①学習シート ①振り返りシート
		4 5	○ゆでる、いためる調理を組み合わせた「野菜のベーコン巻き」の調理計画を立てる。	【知】②学習シート 【思】①学習シート
		6	○調理する。（一人調理）	【知】③行動観察・学習シート 【主】①行動観察
	3	7 8	○家族のために作る1食分の献立を考え、調理計画を立てる。（副菜・汁物）	【知】②学習シート 【思】①学習シート
		課外	家庭実践	
	4	9 10	○家庭実践報告書を作成し、自分の家庭実践を振り返る。実践報告会を通して、これからの食生活に生かす計画を立てる。	【思】①報告書・振り返り 【思】②振り返りシート 【主】②振り返りシート

栄養バランスチェック表（熊本市教育センター作成）



献立の内容を考える



栄養のバランスをチェックする

## 2 本時の授業計画

### (1) 本時の目標

1 食分の献立を考える活動を通して、栄養のバランスを考えた献立の立て方を理解することができる。

### (2) 展開

過程	時間	学習活動	○主な発問・指示 ・予想される子どもの反応	○教師の支援 (T1 T2) ◎評価	備考 ・ICT 機器等
導入	5	1 太郎さんの献立を確認し、本時のめあてを立てる。	○太郎さんが考えた献立を見てみましょう。 ・主食、主菜、副菜、みそ汁があるね。 ・黄、赤、緑が全部入っているけど、栄養のバランスはいいのかな。	T1 T2 太郎さんの献立を考えることで、献立の構成要素や献立を考えるときに栄養のバランスを考える大切さに気付かせる。	電子黒板
			栄養のバランスを考えた献立を立てよう。		
展開	15	2 太郎さんの献立について考える。  (1) 個人で考える。  (2) 友達と考える。	○太郎さんの献立をよりよくするにはどうしたらよいか考えてみましょう。 ・栄養のバランスをよくするにはどうすればいいのかな。 ・緑の食品が足りないようだからみそ汁の実を□□にしてみよう。  ○友達と意見交流しましょう。 ・副菜を別の料理に変更してみよう。 ・みそ汁の実を変えたんだね。	T1 タブレット上で可視化した中で、黄・赤・緑のグループを確認する。  T1 T2 選んだ副菜やみそ汁の実について選んだ理由を考えさせるようにする。	電子黒板  副菜カード  タブレット (ロイロノート) 栄養バランスチェック表 (熊本市教育センター作成)  発表メモ (ノート)
	20	3 栄養バランスを考えた献立の立て方のポイントをまとめる。  (1) 全体で意見交流をする。  (2) 栄養バランスについてまとめる。	○友達と意見交流した献立について、発表しましょう。 ・緑の食べ物を増やすために生野菜サラダに副菜を変えました。 ・みそ汁の実を旬で緑の□□にしました。  ○栄養のバランスを考えた献立作りのポイントをまとめましょう。 ・副菜や汁物の実で野菜をたくさんとることができる。 ・主食・主菜を決めて、副菜・汁物で栄養のバランスを整える。  ○献立を立てる際の栄養のバランスについて栄養教諭の長尾先生にお話を聞いてみましょう。  ○栄養のバランスを考えた献立を立てるには、どうすればよいかまとめ、太郎さんにアドバイスしましょう。	T1 T2 発表した献立に対して述べた理由を認めながら補足し、子ども達の理解が深まるようにする。  T1 複数の食品を組み合わせることで、栄養のバランスを整えることができることに気づかせる。  T2 黄：赤：緑の割合が、3：1：2を目安にするとよいことを知らせ、栄養のバランスへの理解を深めさせる。 ◎【知】①栄養のバランスを考えた献立の立て方を理解しているか。	黄・赤・緑のバランス図  太郎さんへのアドバイス
終末	5	4 本時の学びを振り返る。	○栄養のバランスを考えた食事づくりができる自分に近づくことができましたか。 ・栄養のバランスのとり方が分かった。 ・栄養のバランスのよい献立を立てるには、副菜や汁物の実で調節できることが分かった。	T1 本時の学びを振り返ることにより次時の学習に生かせるようにする。	タブレット (メタモジ)

## 第6学年2組 家庭科 学習指導案

指導者 教諭 小菌 裕太郎

### 1 題材の構想 生活を変えるチャンス！ (東京書籍) A(4)ア

の児童の姿	自分や家族・地域の生活に関心を持ち、これまでの家庭科での学習を生かして、日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、生活の営みに係る見方・考え方やSDGsの項目などを考慮しながら、よりよい生活を考えて、計画を立てて実践しようとしている。	
	【思考力、判断力、表現力等】	「学びに向かう力、人間性等」
題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭の仕事または家族・地域との関わりについて日常生活の中から課題を設定し、工夫して計画を立てる。</li> <li>課題解決に向けて実践し、結果を評価、改善する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族・地域の一員として、生活をよりよくしようと、家庭の仕事または家族・地域との関わりに関する課題解決に向けて主体的に取り組む。</li> <li>家族・地域の一員として、生活をよりよくしようと、家庭の仕事または家族・地域との関わりに関する課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。</li> </ul>
目標に向かうための手立て	<p>○ 研究の視点</p> <p>【視点1 課題設定の工夫】 設定家族の1日から課題を見付け、自分の家庭の課題と結び付けることや、前回の実践からの気づきや改善点をもとにパワーアップポイントを考えることで、新たな課題もしくは同じ課題に対しての新たな取組に活かすというねらいを明確にする。</p> <p>【視点2 指導の工夫】 パワーアップポイントをもとに、自分の家庭や地域の人々との関わりの中での新たな課題へとつながりたい。その時に、前回のレポートやこれまで学習してきた題材の振り返りシートから、気づきや改善点を共有し、アドバイスをし合うことで、持続可能で、よりよい生活の改善のヒントとなるようにする。</p> <p>【視点3 振り返りの工夫】 今までの学習や、授業の終末を振り返ることで、実践に向けた意欲の向上と課題解決に向けた取組をよりよいものにする。課題と改善策はメタモジのシートにまとめ、モニタリング機能を活用しながら展開していくようにする。</p>	
児童の実態	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全員が家庭科は将来役に立つと考えている一方で、「今の自分に役立っているか」という問いに対して役立っていると答えた児童は半数に留まった。</li> <li>○自分の生活を変えたいと考えている児童は全体の6割だった。今の生活に課題を感じている児童は少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○約6割の児童が家庭科は好きと答えている。苦手と感じている児童はクラスの半数いる。しかし、クラスの全員、家庭科は役に立つと回答している。</li> <li>○家庭科で学習したことを家庭で実践している児童は約7割である。</li> <li>○SDGsを意識して生活している児童は全体の5割であった。</li> </ul>

題材の評価基準	
思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>①家庭の仕事または家族・地域との関わりについて日常生活の中から問題を見だし、課題を設定している。</li> <li>②家庭の仕事または家族・地域との関わりに関する課題解決に向けて、よりよい方法を考え、計画を工夫している。</li> <li>③家庭の仕事または家族・地域との関わりに関する課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している。</li> <li>④家庭の仕事または家族・地域との関わりに関する課題解決に向けて実践した結果を評価・改善している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①家族・地域の一員として、生活をよりよくしようと、家庭の仕事または家族・地域との関わりに関する課題解決に向けて主体的に取り組もうとしている。</li> <li>②家族・地域の一員として、生活をよりよくしようと、家庭の仕事または家族・地域との関わりに関する課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。</li> <li>③家族・地域の一員として、生活をよりよくしようと、家庭の仕事または家族・地域との関わりに関する課題を見つけ、次の実践に取り組もうとしている。</li> </ul>

指導と評価の計画（3時間取り扱い ●本時 1/3）

課題	次	時	主たる学習活動	評価する内容と方法等
よく家族や地域のためによりよい生活を実現し	1	1	●自分の生活を見つめ、問題を見だし、学習課題を設定する。	【思】①学習シート 【主】①振り返りシート
		課外	○家族とともに仮課題について話し合い、決定する。	【主】①学習シート
	2	1	○実践するための計画を立てる。	【思】②実践レポート
		課外	○家庭で実践する。 ○実践報告書を作る。	【思】③実践レポート 【主】②振り返りシート
	3	1	○実践報告会を開き、これからの生活に活かせることを考える。	【思】④学習シート 【主】③振り返りシート

2 本時の授業計画

(1) 本時の目標

今まで学習してきたことを生かして、日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、よりよい生活を考えることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動	○主な発問・指示 ・予想される子どもの反応	○教師の支援 ◎評価	備考 ・ICT機器等
導入	12	1 本時の学習課題を見つける。 (1) 昨年行った実践を振り返る。 (2) 設定家族の一日の中から課題を見つける練習をする。	○今までどんなことを学習してきましたか。 ・ゆでる、炒める等の調理ができるようになった。 ○昨年の実践からの気づきや現在の様子からよりよくできそうなパワーアップポイントを考えよう。 ・SDGsの視点 ・身近なものを使って	○昨年の課題と実践のシートを振り返らせる。 ○設定家族の中で地域を取り扱い、地域への視点も広げられるようにする。	電子黒板  昨年のレポート  タブレット(キーノート) 設定家族電子黒板
		よりよい生活をするために、家族や地域に向けたパワーアップ大作戦を考えよう。			
展開	10	2 生活の営みに係る見方・考え方やSDGsの視点も考慮しながら、自分の家の課題を考え、友達とも話し合い、さらに改善する。	○自分の家庭について課題を考えてみましょう。 ・自分もこの設定家族と同じようなことがあった。	○課題となる観点は生活の営みに係る見方・考え方やSDGsを参考にさせる。 ○対象を明確にし、相手意識と目的意識を持てるようにする。	タブレット(メタモジ)
	15	3 友達の考えを聞き、課題を仮決定する。	○友達と相談してどのような改善策があるか考えてみましょう。 ・買うのではなく家の物を利用するとSDGsにつながるよ。 ・うちのみそ汁の野菜は炒めているから美味しいよ。 ○家族や地域のためにできる課題を設定しましょう。	◎【思】①日常生活の中から家族や地域の方に向けた課題を設定できているか。 ○導入で扱ったパワーアップポイントを参考にするように声掛けを行う。	
終末	8	4 次時の学習を知り、本時の学びを振り返る。	○家の人と相談して決定したら、計画を立てます。 ○本時の振り返りをしましょう。	◎【主】①家族・地域の一員として、生活をよりよくしようと、課題解決に向けて主体的に取り組もうとしている。	タブレット(メタモジ)

## 第5学年2組 家庭科 学習指導案

指導者 教諭 伊田 朱里

### 1 題材の構想 ミシンにトライ！手作りで楽しい生活（東京書籍）B（5）アイ

の 児 童 の 姿	一人一人の思いや願いのこもった布製品を製作することができ、製作を通して、布製品のよさや多様さに気付くとともに、生活を豊かにするための布製品を作って、生活をよりよくしようとしている。		
	〔知識及び技能〕	〔思考力、判断力、表現力等〕	「学びに向かう力、人間性等」
題材の 目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全なミシンの使い方を理解し、正しく使うことができる。</li> <li>丈夫に作るための製作計画を立て、製作することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の生活を見つめ直し、生活を豊かにするための課題を見だし、さまざまな解決方法を考えることができる。</li> <li>実践を評価・改善し、自分の考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活をよりよくするための課題を見つけ、改善しようと主体的に取り組む。</li> <li>実践を振り返り、改善したりして、生活を豊かにする工夫をし、実践しようとしている。</li> </ul>
目標 に向 かう た め の 手 立 て	<p>○研究の視点</p> <p><b>【視点1 課題設定の工夫】</b> 題材導入時に「世界に一つだけのエプロンを作ろう」という題材を通してためあてを設定することで意欲を喚起するとともに、そのために必要な技能や準備・製作計画を自ら考えることができるようにする。</p> <p><b>【視点2 指導の工夫】</b> 実物や見本、段階写真を提示し、見比べることで、一つ一つの手順をイメージしやすくする。また、見本をもとに考えた縫う順番や工夫について交流し、製作手順の根拠に気付かせることで、自分の考えを広げ、深めることができるようにする。</p> <p><b>【視点3 振り返りの工夫】</b> 生活を振り返り、生活に学びを生かすという教科の特質から、振り返りシート（メタモジ）を活用し、「今日の学び」「これから」の視点で振り返りを行い、自分の生活の変化や成長を実感できるようにする。また、製作の様子を画像で記録し、改善点を記入することで、次の製作に生かすようにする。</p>		
児 童 の 実 態	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1学期は、フェルトを使って手縫いで小物入れの製作をした。玉結び、玉どめ、ボタン付け、なみ縫い、かがり縫い、返し縫いを学習している。</li> <li>○ミシンを使ったことがあると答えた児童は3人。家にミシンがない児童は5割を超えている。ミシンに対して「危なそう」「怖い」というイメージを持っている児童が半数いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1学期の手縫いの学習では、縫う順番や縫い方の工夫について問題を見だし、課題を設定した。製作見本を観察したり手順カードを並べ替えたりする活動を通して、身に付けた技能を生かした縫い方を検討し、製作計画を立て、製作することを経験している。</li> <li>○1学期の手縫いの学習を振り返り、「作るのが楽しい。」「大事に使おう。」「他にも作ってみたい。」と感じている児童が多い。その反面、「難しい。」「きれいに作れない。」「やり方が分からない。」と苦手意識を持っている児童が2人いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○これまでに生活を豊かにするものを自分で作ったことのある児童は、2割である。そのうち、布を使って作ったことがある児童は、2人いる。</li> <li>○1学期の手縫いの学習後、家庭で小物入れなどを作りたいと製作計画を立て、夏休みに製作した児童は4割いる。</li> <li>○ミシンの授業では、エプロンの他にも「バックを作りたい」「ランチョンマットを作りたい」など学習を楽しみにしている児童が多い。</li> </ul>

題材の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>①製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解している。</li> <li>②ミシン縫いによる目的に応じた縫い方について理解できるとともに適切にできる。</li> <li>③ミシンなどの用具の安全な取り扱いについて理解できるとともに適切にできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①マイエプロンの製作計画やミシン縫いによる製作について問題を見だして、課題を設定している。</li> <li>②様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①家族の一員として、生活をよりよくしようと、生活を豊かにするための布を用いたミシン縫いによる製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組む。</li> <li>②実践を振り返って改善したり、生活を工夫したりして、実践しようとしている。</li> </ul>

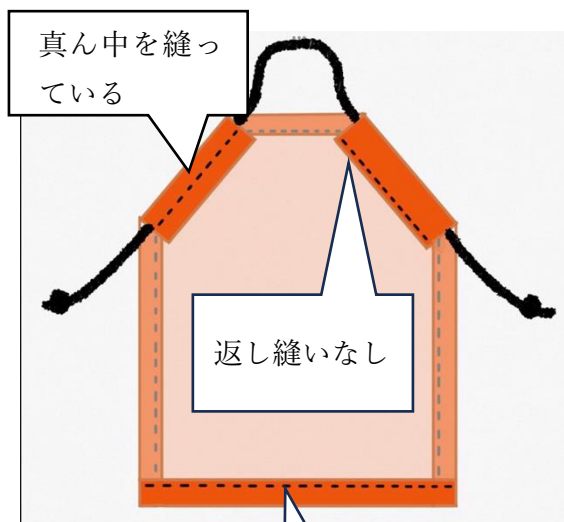
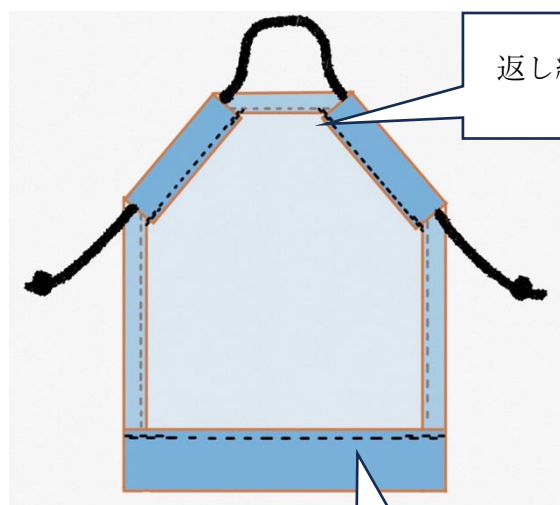
指導と評価の計画（12時間取り扱い ●本時 7/12）

課題	次	時	主たる学習活動	評価する内容と方法等
世界に 一っだけの エプロン を作ろう	1	1	○ミシン縫いと手縫いの違いを考えたり、身近なミシン縫いの布製品を観察したりして、ミシン縫いのよさに気付く。 ○自分の生活を豊かにするものを考え、その製作に必要な技能や準備物などを考え、製作計画を立てる。	【思】①学習シート 【主】①振り返りシート
	2	2	○手縫いの時と比べながらミシン縫いで必要な部分の名前を知る。安全なミシンの縫い方について知り、直線縫いをする。 「ミシン針」「はずみ車」「押さえ（レバー）」「コントローラー」「電源（スイッチ）」 ○「返し縫い」「角の曲がり方」の仕方を知り、縫う。 ○ミシンの糸通しの仕方が分かる。	【知】②③観察・作品 【主】①振り返りシート
	3	3		
	4	4		
	5	5	○エプロンにふさわしい布を選ぶ活動を通して、いろいろな布の違いや種類に気付く。 ○必要な布の大きさや布端の始末の必要性を理解する。	【知】①学習シート
	6	6		
3	7	●見本をもとにエプロンの製作手順や工夫を考え、製作計画を立てる。	【知】①学習シート 【思】①学習シート	
8	8	○製作計画に沿って、製作する。 ①布にしるしをつける。 しつけをする。 ②直線縫いをする。 ③かざりやポケットをつける。 ④アイロンをかけ、ひもを通す。	【知】②③観察・作品 【思】②学習シート 【主】②振り返りシート	
9	9			
10	10			
11	11			
4	12	○作品を友達と見せ合い、自分の製作を振り返る。	【思】②学習シート 【主】②振り返りシート	

【見本】

完成見本

比較見本



大きく三つ折り

小さく三つ折り

2 本時の授業計画



(1) 本時の目標

見本をもとにエプロンの製作手順や工夫を考え、製作計画を立てることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動	○主な発問・指示 ・予想される子どもの反応	○教師の支援 ◎評価	備考 ・ICT機器等
導入	5	1 本時のめあてを確認する。	○どうやってエプロンを作るのだろう。 ・手順を知りたい。	○前時までの活動を電子黒板に掲示することにより振り返ることができるようにする。	電子黒板
	『世界に一つだけのエプロン』のぬう順番と工夫を考えよう。				
展開	20	2 縫う順番を考える。 (1) グループで考える。  (2) 全体で共有する。	○エプロンを作るにはどこを縫えばよいか考えましょう。 ・周りを三つ折りにして縫う。 ○どんな順番で縫うとよいか考えましょう。 ・重なっているところを見ると縫う順番が分かる。 ・ひも通しの部分を後に縫うと、ひもが通る。	○紙のミニエプロンを準備することで、実際に縫い代部分をつなげながら考えることができるようにする。 ○見本を準備することで、詳しく観察し、縫う場所や順番を考えることができるようにする。	紙のミニエプロン 完成見本 電子黒板 タブレット (メタモジ)
	15	3 縫い方の工夫を考える。 (1) 丈夫に縫う工夫を考える。  (2) 裾の縫い方を考える。  (3) 見つけた工夫を確認する。	○□□な工夫を見つけましょう。 ・丈夫にするために、縫い始めと縫い終わりは、返し縫いがしてある。 ・丈夫にするために、ひも通しの部分の縫い始めと縫い終わりは、はみ出して縫ってある。 ・ひもが通せるように、ひも通しの部分は端を縫ってある。  ・長く使えるために、裾が大きく折り曲げてある。身長が伸びた時、調整できると思う。	○手縫いの時に見つけた工夫と関連付けて、縫う場所にも目をつけながら見つけることができるようにする。 ○題材導入時の子どもたちの思いから□□の言葉を当てはめる。 ○実際に着用している写真や標本を使い、裾のぬいしろの違い、長く使うためのよさに気付くことができるようにする。 ◎【知】①縫う順番や工夫について理解している。	比較見本 タブレット (メタモジ) 電子黒板
				○分かったことや工夫することをまとめましょう。	◎【思】①マイエプロンの製作計画について考えている。
終末	5	4 本時の学びを振り返る。	○どんなことを学びましたか。 ・縫う順番を間違えないようにしたい。 ・丈夫に使えるように返し縫いを忘れないようにしたい。 ・ひもが通せるように、端を縫うことを忘れないようにしたい。	○本時の学びを書くことにより製作に生かせるようにする。	タブレット (メタモジ)

## 第5学年1組 家庭科 学習指導案

指導者 教諭 松島 慧

### 1 題材の構想 持続可能な暮らしへ 物やお金の使い方 (東京書籍) C

題材の 終った 児童の 姿	「持続可能な社会の構築」などの視点から、消費者として、物の選び方、買い方、使い方を考え、工夫しようとしている。		
	<b>〔知識及び技能〕</b>	<b>〔思考力, 判断力, 表現力等〕</b>	<b>「学びに向かう力, 人間性等」</b>
<b>題材の目標</b>	物や金銭の使い方と買い物や環境に配慮した生活について理解するとともに、購入に必要な情報の収集・整理が適切にできる。	物や金銭の使い方と買い物や環境に配慮した生活について問題を見いだして課題を設定し、さまざまな解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。	家族の一員として、生活をよりよくしようと、物や金銭の使い方と買い物や環境に配慮した生活について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。
<b>目標に向かうための 手立て</b>	○研究の視点 <b>【視点1 課題設定の工夫】</b> 今までの自分や家族の買い物を振り返り、失敗したと思う経験を出し合い、共有し合うことで、よりよい消費者になろうという題材のゴールを目指そうとする意欲を高めることができるようにする。 <b>【視点2 指導の工夫】</b> ロイロノート内のカラーテキスト活用・お金の使い方の疑似体験・具体的な買い物の場面想定によって、児童の意思決定や表現・集約ができるようにする。 <b>【視点3 振り返りの工夫】</b> 振り返りシート(メタモジ)を活用したり、児童の記入例を全体で紹介したりすることによって、児童の振り返り意欲を高める。		
<b>児童の実態</b>	○一人で牛乳を買う場面を想定した時に選ぶ基準として、銘柄(半数)、値段(3割)、消費・賞味期限(2割)が挙げられた。 ○2割の児童が返品を経験しており、その際にレシートが必要だと考えている。	○「気に入った筆箱があったら、買いますか?」の問いに、買わない(8割)、買って使用中のものを誰かに譲る(1割)、買って使用中のものが古くなるまで保管する(1割)だった。 ○お年玉を全額預貯金した児童が約1割、少し使って残りを預貯金した児童が6割、保護者に預けた児童が3割だった。	○一人買い物の経験を9割の児童がしている。(おやつ・おもちゃ・野菜などのおつかい) ○家の中の消耗品を使い切った時や使えなくなったと気づいた時に、家の人に伝えたり、買いに行ったりしたことがある児童が割だった。(牛乳、トイレトペーパー、蛍光灯)

題材の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 買い物のしくみや支払いの方法について理解している。 ② 購入に必要な情報の収集・整理について理解し、適切にできる。	① 限りある物や金銭の使い方や消費者の役割について考えている。 ② さまざまな情報を活用し、目的に合った物の選び方や買い物の仕方について考え工夫している。	① 家族の一員として、今までの買い物を振り返り、生活を改善しようとしている。 ② 上手な物の選び方、使い方の学習を生かして、環境や資源に配慮した生活を工夫し、実践しようとしている。



指導と評価の計画（6時間取り扱い ●本時3/6）

課題	次	時	主たる学習活動	評価内容・方法
目指せ 買い物名人!!	1	1	○今までの買い物を振り返り、失敗した経験を共有し、学習の見通しをもつ。 ○消費者の役割や必要な物を手に入れる方法について考える。	【主】① 観察・振り返りシート
	2	1	○買い物（おはじき）ゲームを通して、お金の大切さについて考える。	【思】① 観察・振り返りシート
		1	●買い物の場面を具体的に想起し、売買契約について学ぶ。	【知】① 観察・振り返りシート
	2	○買い物の方法、支払いの方法について学び、買い物をするとき、どのような情報を集め、整理し、どのように選ぶかを考える。	【知】②【思】② 観察・振り返りシート	
	3	1	○消費者として持続可能な生活の工夫についてできることを考え、買い物と環境や資源との関わりを知る。	【主】② 観察・振り返りシート

2 本時の授業計画

(1) 本時の目標

筆箱を買う場面などを具体的に想起しながら、売買契約について理解することができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動	○主な発問・指示 ・予想される子どもの反応	○教師の支援 ◎評価	備考 ・ICT機器等
導入	4	1 本時の学習課題を見つける。	○お店で筆箱を購入。帰宅後、後悔しました。あなたなら、その筆箱をどうしますか？ ・返品する。	○買い物の具体的な場面を想起しやすいように、各場面の写真を黒板に掲示する。 ○消費者側の都合による返品はお店の厚意であって、本来すべきことではないと伝える。	写真
		なるべく返品しない買い物について考えよう。			
展開	13	2 売買契約について学ぶ。 (1) 筆箱の買い物場面について考える。	○どの場面までさかのぼって考えれば返品にならないのでしょうか？ ・お店を出る前なら、返すことができるのかな？ ・お金を払う前なら、大丈夫かな？	○児童一人一人の考えを把握するため、ロイロのカラーテキストを活用する。 (提出箱を無記名で投影) ○買い物の場面ごとの写真を使った説明をすることによって、「売買契約のタイミング」「買い手・売り手がしなければいけないこと」について理解できるようにする。	タブレット (ロイロノート)
	10	(2) 宅配ピザの電話注文について考える。	○花子さんが宅配ピザを電話で注文しました。電話を切った直後に、家族の嫌いな食材が入っていることに気づきました。変更できる？できない？	○企業側の話を聞くことによって、返品することは消費者として好ましくない行為であることを実感できるようにする。	動画 (企業の方の話)
	10	(3) インターネット売買について考える。	○インターネットでの買い物には、返品についての記述があります。どうして、お店の厚意である「返品」についての記載があると思いますか？企業の人の話を聞いてみましょう。	◎【知】①売買契約について理解している。	
終末	8	3 本時の学びを振り返る。	○今日の学習の中で大切な言葉は何ですか？その言葉を使って、まとめましょう。 ○振り返りをしましょう。 ・返品はお店の厚意なので、売買契約前によく考えて買い物ができるようになりたい。	○売買契約と返品との関係についての記述やこれからの買い物で気を付けることなどを全体で紹介することで、買い物をする時の心構えを共有する。	タブレット (メタモジ)